



川^{かわ}辺^べで、ペンライトをチカチカさせたら、ホタルが飛^とんできたのはなぜ

ホタルは光^{ひかり}で合^あ図^{いず}しあっている

川^{かわ}辺^べでよく見^みられるのは、ゲンジボタルです。ホタルが飛^とび回^{まわ}る時^じ間^{かん}はだいたい決^きまっ
ていて、日^ひが暮^くれたすぐ後^{あと}の1時^じ間^{かん}ぐらいです。ホタルの光^{ひかり}は、気^きをつけて見^みていると、チ
カチカついたり消^きえたりしています。じつは、この光^{ひかり}が、ついたり消^きえたりする時^じ間^{かん}の間^{かん}
が、ホタルの種^{しゅるい}類^いによってちがうのです。

ホタルは、このチカチカする光^{ひか}り方^{かた}のちがいで、同^{おな}じ仲^{なか}間^まかどうかを確^{たし}かめたり、同^{おな}じ仲^{なか}間^ま
のメスを呼^よび寄^よせる合^あ図^{いず}にししたり、しているのです。

ペンライトの小^{ちい}さい光^{ひかり}の大き^{おお}さと、チカチカさせた光^{ひかり}の点^{てん}めつが、ホタルのメスの光^{ひか}
り方^{かた}に似^にていたため、仲^{なか}間^まとまちがえて、ホタルのオスが飛^とんできたのでしょ

ホタルの種^{しゅるい}類^いによる光^{ひか}り方^{かた}、好^すきな光^{ひかり}の色^{いろ}

田^たんぼ^{ちか}の近^みくでよく見^みられる、体^{からだ}の小^{ちい}さいヘイケボタルは、1.5~2秒^{びょう}ご^{ひか}とに、光^{ひか}
ります。

体^{からだ}が大きいゲンジボタルは、なぜか同^{おな}じ種^{しゅるい}類^いでも、西^{にし}日^{にほん}本^{ひがしにほん}と東^{ひがし}日^{にほん}本^{ひがしにほん}にすむものでは、こ
の光^{ひか}り方^{かた}がちがうことが、わかっています。西^{にし}日^{にほん}本^{ひがしにほん}にすむゲンジボタルは、2秒^{びょう}ご^{ひか}とに光^{ひか}
り、東^{ひがし}日^{にほん}本^{ひがしにほん}にすむものは、4秒^{びょう}ご^{ひか}とに光^{ひか}ります。

光^{ひか}り方^{かた}のほか、光^{ひかり}の色^{いろ}によっても、ホタルがよく近^{ちか}寄^よってくる色^{いろ}と、そうでない色^{いろ}
があるようです。ゲンジボタルがよく近^{ちか}寄^よってくる光^{ひかり}の色^{いろ}は、黄^{きいろ}色^{いろ}、緑^{みどりいろ}色^{いろ}、次^{つぎ}に赤^{あかいろ}色^{いろ}といわ
れています。さまざまな色^{いろ}セロファン紙^しをペンライトの上^{うへ}にかぶせて、チカチカさせてみる
と、ホタルのよく寄^よってくる色^{いろ}を実^{じっ}験^{けん}してみることができます。ホタルが近^{ちか}くでよく見^みられ
るなら、ためしてみましよう。(監^{かん}修^{しゆ}・中^{ちゆう}山^{さん} 周^{しゆう}平^{へい})

